



# わたしの 夢

飯坂小学校6年

鈴木 怜央れお

## 的確な配球で打者を打ち取る プロ野球選手になりたい

わたしの夢は、試合の状況を見て打者を打ち取る配球ができるプロ野球選手になることです。なぜ、私がプロ野球選手になりたいと思うようになったかという、ソフトを始めた小学4年生の時に見たプロ野球の試合で、キャッチャーが盗塁を刺したり、バウンドしたボールを身体で止めたりする姿を見て、私もこの選手のようなプロ野球選手になりたいと思ったからです。プロ野球選手の中でも、私が一番憧れているのは、福岡ソフトバンクホークスの甲斐拓也選手です。甲斐選手はとても肩が強く、試合中に何度も盗塁を刺すのを見てきました。また、日本シリーズでは、MVPを受賞していて、バッティングや投手に合わせた配球も上手です。プロ野球選手のプレーは、子どもから大人まで、たくさんの人を元気にしていると思います。私もいつか、川俣町や全国の人を元気にできるプレーができるプロ野球選手になれるように、これからも練習に取り組んでいきたいと思っています。

### 町長のひとこと vol.8



「むらさき」第29号を発刊した川俣町文学サークル副会長の吉田昭さんを訪ねました。川俣町文学サークルは、平成3年に公民館事業として始まり、約50名で発足。翌年、第1号の発刊以来、今年で第29号まで発刊しています。現在、在籍する22名の会員の中には、他の団体やサークル等で活躍している方もおり、どのようにして、詩や短歌、俳句などの創作活動をしているのか、と驚きました。家族や子どものこと、昔の思い出や原発事故のことなど身近なことが題材になっているようで、楽しく読ませていただきました。小島ふるさと交流館で開催された川俣町文化祭では、全巻が展示され、希望者に贈呈したところ、3名の入会者があったそうです。また、来年の第30号記念の発行に向け会員の募集を呼びかけるとのことでした。次号も楽しみです。